

先史「石」文化への

地質学・考古学的分析

先史時代において、「石」は利器や装飾などに用いられ、地域・時期に固有の「石」文化が形成されてきた。近年、「石」文化に対して地質学と考古学の連携による研究が盛んに行われている。しかしながら、「石」文化の資料は、地質学における岩石試料という側面、考古学における文化財という側面をもち、破壊・非破壊分析が併用され、いずれが妥当かという議論が日頃から行われている。本ワークショップでは、学際的に活躍される台湾・中央研究院の飯塚義之氏を招き、化学分析によって明らかにされた先史文化の石材利用についてご講演いただく。その上で、事例研究の紹介や石材分析の実演を通して、「石」に対する破壊・非破壊分析について相互的な検討を試みる。

2月19日(火) 13:00～

於：CAHE ラウンジ 17:00

東北大学川内北キャンパス川北合同研究棟 1F

事前申し込み不要、参加自由（懇親会を行います。希望の方はお問合せください。）

基調講演：

飯塚義之 「考古石製遺物の非破壊化学分析」

1964年生まれ。岡山大学固体地球研究センター博士課程修了。現在は台湾中央研究院地球科学研究所研究技師、金沢大学国際文化資源研究センター客員研究員。専攻は実験地球化学、文化財科学分析。

研究発表：

青木要祐・佐野恭平・和田恵治 「EPMAによる黒曜石製石器の原産地分析」

洪惠媛 「韓半島における旧石器時代の石材利用」

熊谷亮介 「複製石器の3D形態計測と刺突による破壊実験」

資料分析実演（縄文時代石製遺物の蛍光X線分析）：

花田杜綺 「分析資料の概要」

飯塚義之 「ポータブルXRFによる分析実演」

総合討論・資料検討会

X ray

K

L

M

CNEAS

X ray fluorescence K_{α}

X ray fluorescence K_{α}



主催：東北大学東北アジア研究センター公募型共同研究

『東北アジアの地質的多様性に対する「石」文化の技術的適応』

東北アジア研究センター

『東北アジアにおける地質連続性と「石」文化共通性に関する学際研究ユニット』

共催：東北大学東北アジア研究センター・東北大学大学院文学研究科考古学研究室

お問い合わせ：東北大学大学院文学研究科考古学研究室

青木要祐 yousuke920707@gmail.com